



研究部会報告

●待ち行列●

●第83回

日時：6月20日(土) 14:00~16:40 出席者：28名

場所：東京工業大学(大岡山) 本館1-94号室

テーマと講師：

(1)「Temporal Cell Loss Behavior in ATM Networks with Heterogeneous Burst Input」 鈴木 洋 (日本電気C&C研究所)

ATM網におけるパストトラフィック多重特性をバッファレスモデルにおいて解析し、流体近似を用いて、オーバーロード期間中のセル廃棄率およびオーバーロード期間長とアンダーロード期間長の平均を求めた。

(2)「Time-dependent Rate Conservation Law and its Applications」 宮沢政清 (東京理科大学)

初期状態が与えられ、時間に依存する一般の過程に対する Rate Conservation Law を導出し、リスク過程と在庫過程に適用した。

●第84回

日時：7月18日(土) 14:00~16:00 出席者：19名

場所：東京工業大学(大岡山) 本館1-94号室

テーマと講師：

(1)「Relationships between Stationary and Palm Moments in the G/G/1 Queue with Priorities」 Martin A. Wortman, Ralph L. Disney (Texas A&M University)

優先権をもつ G/G/1 待ち行列の Time Stationary モーメントと Palm モーメントの関係について調べ、PASTA 以外では、両者が異なることを示した。

(2)「Distributional Form of Little's Law for Stationary Discrete-Time Queues」 高橋敬隆 (NTT 通信網総合研究所), 宮沢政清 (東京理科大学)

連続・離散時間の両モデルについて、優先権をもつ複数クラス、パッチ到着、単一サーバ待ち行列GI/GI/1の待ち行列長と待ち時間分布を、Inversion Formula を用いて導出した。

●システムモデリング手法とその活用●

●第2回

日時：6月27日(土) 14:00~17:00 出席者：15名

場所：九州大学経済学部 407号室

テーマと講師：1.「アジアにおける日本メーカーの経営について」 国狭武巳 (九州産業大学経営学部) アジアに進出している日本メーカーの生産管理のあり方や現地での活動方針について論じた。

2.「ソフトウェアテストのためのプログラムのモデル化について」 古川善吾 (九州大学工学部) プログラミング言語 Ada を用いて並行処理されるプログラムの検証技術について紹介した。

●第3回

日時：7月18日(土) 14:00~17:00 出席者：28名

場所：九州大学経済学部 3階合同研究室

テーマと講師：1.「研究開発活動の統計分析について」 朱保華 (佐賀大学経済学部) 日本企業の研究開発投資による効果を回帰モデルにより分析し、その精度や米国での実施例との比較検討を行なった。

2.「エキスパートシステム事例紹介 (要員配置エキスパートシステム, 生産計画エキスパートシステム)」 梶井金徳 (日立システムエンジニアリング(株)九州事業所) エキスパートシステム記述ツールである ES-Kernel の適用事例として原子力プラント点検要員配置問題とプラスチック原料の生産計画問題を示した。

●第4回

日時：8月29日(土) 14:00~17:00 出席者：12名

場所：九州大学経済学部 407号室

テーマと講師：1.「資産運用モデルについて」 清水 博 (九州大学経済学部) 株価を2つのARMAモデルに従う時系列の商として近似する方法を紹介し、英国や日本での金融商品の決定での利用の例を論じた。

2.「Next Computer を用いた並列計算アルゴリズム実演ツール」 掛下哲郎, 辻秀行 (佐賀大学理工学部) 並列計算を図示する教示システムを実現し、デッドロックやライブロックの表現へと応用した。

●確率モデルにおける最適化●

●第17回

日時：7月18日(土) 14:00~18:00 出席者：34名

場所：筑波大学第3群F棟11階3F1136号室

テーマと講師：数理計画

(1)「ポートフォリオのコンパクト分解と線形制約付き最小ノルム点問題」 施 建明(筑波大学)

最小ノルム点問題とは d 次元ユークリッド空間に与えられた n 点集合の凸包内でノルム最小の点を求めるものである。本発表では、この凸包と与えられた1つの超平面のまじわりの中でノルム最小の点を求める問題を考え、これに関連した諸性質を紹介した。

(2)「最小包囲球問題および最小ノルム点問題を解く Randomized Algorithms」 吉羽要直(東京大学)

最小包囲球問題とは d 次元ユークリッド空間に与えられた n 点集合を含む最小の球を求めるものである。本発表では、この問題と最小ノルム点問題の関係を論じ、これらの問題に対するランダムイズド・アルゴリズムを紹介した。これらの計算時間複雑度の期待値はいずれも n に比例する。

(3)「An Algorithm for Fractional Assignment Problems」 繁野麻衣子(東京理科大学)

分数割当問題、すなわち線形分数関数を最適にする割当を求める問題に対する多項式時間のアルゴリズムを紹介した。また、このアルゴリズムの特徴は、近似2部探索という手法を用いている点で、その計算量は従来のものより理論的に優れている。

●データ解析とOR●

●第2回

日時：9月5日(土) 14:30~17:00 出席者：25名

場所：万代市民会館(新潟市)

テーマと講師：

「選挙予測について」 沖野安春(新潟大学教養部)

政治学の立場から、選挙予測について、その目的、予測事項、手法、予測の誤差、問題点等に関し、基礎的な内容から種々の実施例、外国の状況等をまじえて解説した。

●人間のグローバル経営システム●

●第17回

日時：9月5日(土) 14:00~17:00 出席者：11名

場所：東京都勤労福祉会館(中央区新富)

テーマと講師：「今に生きる尊徳哲学・バブル経済の反省」 村澤余士朗(中南電機産業株式会社社長)

二宮尊徳先生の哲学とその実践は平成バブル経済のそれとは全く対照的なもので、分度と推譲という、尊徳がその実践の中から直感的につかみとった報徳の哲学、民主主義的報徳仕法の理論と実践は地球上すべての人間を包含する新しい文明の糸口を示しており、これこそ21世紀に向かう経営の指針であると思料する次第です。

APORS の論文誌 “APJOR” への

ご投稿とご購読のお願い

APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) は、その Official Journal という性格から、APORS 加盟各国から Associate Editors への参加が求められており、日本OR学会からは、若山邦紘教授(法政大学)と茨木俊秀教授(京都大学)が参加されています。これからも同誌を一層もり立ててゆくため、論文の投稿・雑誌の購読についてご協力をお願いいたします。

1993年購読料：2000円(5月・11月発行予定)(送料込)

雑誌はシンガポールOR学会から貴殿宛直接送られます。

お申込みは学会事務局へ。(申込締切12月21日)

平成5年度会費納入のお願い

平成5年度の会費請求書をお送りいたしますので、12月末日までにご送金くださるようお願いいたします。なお、4年度以前の会費を未納の方は合わせてお支払いくださるよう重ねてお願いいたします。